

第4回高齢者部会

日 時 平成22年9月9日(木)午後6時30分

場 所 川崎区役所7階第2会議室

午後 6時25分 開 会

出席者(敬称略)

委員 7人

星川孝宜、猪熊俊夫、須山令子、田辺富夫、富田順人、原紀夫、吉野智佐雄、

オブザーバー 1人

魚津利興(川崎区区民会議委員長)

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

2 議 題

(1) 課題解決策について

部会長 事務局から資料に沿ってご説明をお願いしたいと思います。

事務局 <資料1、2、参考2に沿って説明>

部会長 前回は、審議課題として元気な高齢者向けに「生きがい、社会貢献」、サポートを要する高齢者のために「高齢者に対する環境づくり」、大きく2つを決めました。

その2つについて各委員から資料1の課題解決策を出していただき、計22の課題解決策が並んでおります。

実はそれを事務局と私で3つのくりにしました。似通った意見を枠に入れてあります。前回は「趣味の発表の場を設ける」を「高齢者に対する環境づくり」に入れましたが、むしろ がよいのではと考え、位置づけを変えています。

また、一番下の枠の「家族の援助」は前回「生きがい、社会貢献」でしたが、「外出しやすい環境づくり」に家族の協力が必要ということで、この枠に整理しています。

きょうは資料2のうち、少なくとも「具体的な解決策」は決めたいと思います。したがって、3分野で少なくとも1つ、この後の議論では2つ、3つというケースも出るかもしれません。また、2つを1つにすることもあるかもしれません。

まず、この3つの分野づけでよろしいでしょうか。途中でご意見が出るようであれば、その時点でも結構です。

課題解決策はあくまでも各委員の思いが文言になっていますが、今後は高齢者部会として、ひいては区民会議として取り上げたいものの検討に入ります。

高齢者の持つ「経験の集約、情報発信・活用」には解決策が7つ出ていますが、この中で部会として取り上げたい意見を挙げていただければと思います。詳しい内容は参考資料を見るとわかると思います。

委員 7つの案の中身は参考資料1に書き切れなかったと思うので、私の理解は違うかもしれませんが、ある程度集約できそうな気がします。

部会長 それもあるかもしれませんが、部会として何をやるかを出していただきたいんです。7つをどうにかするのではなく、この中から高齢者部会として何をやるかです。

前回まではあくまでも皆さんの思い、各人が出した意見ですが、今度は部会の声としてどういう取り組みをしましょうか。部会の声は、ひいては区民会議の取り組みになるわけです。数は限定しませんが、最低1つは決めたいということですね。

委員 我々が何をやるかでなくても、現実には個々にみんな動いているわけです。それを区民会議でどうこうしろではない。はっきり言えば生涯学習の充実には既に取り組んでいます。「高齢者が働ける社会への支援」も、行政を交え区民会議として具体的にどのようなものが出せるのかと。

私は実際にやっているものを書いたのですが、前回の審議を聞いていたら、それをやれとかではなく、このようなものがあるという情報を区民会議として出すことがよいと感じるんです。部会長が言うように、何と何をこの会議で決めるという感覚がないんです。

部会長 例えば の分野に情報発信というキーワードが入っています。皆さんの提案の中に既に取り組んでいる地域もあれば、余り広がりがなく、もっと広めたいというときには、やはり情報発信の必要性があります。

ですから、区民会議としてその事業をより充実・強化する方向性を示すことは何らおかしくないと思います。今までやっているから提案しにくいということはなく、やっているよいことを区内全域に広めるということも、区民会議の役割としてあってよいと。

委員 老人会などの方は、ここにあるようないろいろなものは、もう現実にやっていますね。福祉の面だと包括支援センターなどでもいろいろなことをやっておられます。突っ込めば突っ込むほど、その中には相当やっているものが多い。このような私たちの体験で言ったものを提案することがよいのか、ちょっと疑問があったわけです。

部会長 そういう事業も、このいきいきシニアライフの冊子自体も知らない人がいます。要するに知らないことが意外に多くて、役所から言えば、我々が言うことの多くは実施済みや調査済みかもしれません。ただし、知らないということは非常にもったいないので、それを知らしめるということもすごく大事な役割のような気がするんです。

委員 そうということもわかりますからね。

部会長 そうなんです。新しいものをこの場で生み出せと言うと非常に苦しいので、区民会議の役割は、地域の課題を取り上げ、行政でも議会でもできないようなことに、緊急性とか重要性とか実現性を勘案しながら取り組もうということですので、今までやっているけれども、これをもっと普及させようということでもよいと理解しています。

委員 例えば「趣味の発表の場を設ける」だと、その前段として「活動PRのための『集い』の開催」が必要かもしれない。そして趣味の場が取り上げられれば、それはイベントでも生涯学習でもある。そういう形である程度ステップごとにテーマが集約できるだろうという意味で申し上げたんです。

特に「 経験の集約・情報発信・活用」が最終的なテーマだとすれば、これに到達するために、7つの優先順位とか組み合わせがあると思うんです。

我々から出る意見を行政が見れば、実施済みのものが8割ぐらいあるかもしれない。しかし、それを知らないのが現状だとすると、第1ステップとしてPRが必要でしょう。

PRのターゲットが趣味の発表の場で、あるいは肉体的な衰え防止のために少し体を動かすことや、ストレス予防などもあるでしょうから、そういう形でどうでしょうか。

委員 今の意見に賛成です。これだけのものをまとめるのは大変だったと思います。このような活動を皆さんに知ってもらうことも1つの方法だと思います。「活動PRのための『集い』の開催」で集まりやすいものは「趣味の発表の場を設ける」だと思います。

趣味と言うと相当広範囲になりますが、踊りでも歌でも体操でもいい、そういうものをそこへ繰り入れて、この区民会議では高齢者の問題をこう考えているということを皆さんに少しでもわかってもらえれば、それで第1段階になると考えます。

部会長 そうしますと、具体的には「趣味の発表の場を設ける」と「活動PRのための『集い』の開催」を取り上げるということによろしいですか。

委員 「(生涯)学習機会の充実・強化」とか、難しいことをしても、我々、そんな頭もないし、この4人や6人ではそういう仕事はできないのではないかと思うし、何しろ簡単な

ものをやってみて、それから進んでいくということによいと考えます。

委員 私も夫婦で同じ趣味を共有しながら、写真なら写真をどこかへ撮りにいくというようないろいろな趣味があると思いますが、夫婦でいる場合は、そのようなことを考えたらいい。連れ合いが亡くなってしまった場合は、1人で何ができるか考える必要がある。そのようなことから「趣味の発表の場を設ける」ということは大切ではないか。

もう一つは「高齢者が働ける社会への支援」で、皆さんがいろいろな経験をもとに、お小遣い程度の報酬を受けられると、そこから1つの元気さが得られるだろうと思います。

委員 そのとおりだと思います。たばこ銭程度でも出るとなれば、意欲が違います。

委員 手に職のある方はシルバー人材センターに登録して、結構仕事の申し込みがある。例えば草むしりや植木などがあります。それを活用している人は随分いますが、区民会議として我々がそういう人に働く機会を提供できるかとなると、ちょっと難しいと思います。

委員 私は、区民会議でどうするのだということではなくて、シルバーセンターでそういうことをしているということすら知らない人のほうが多いと思うんです。

それから、「(生涯)学習機会の充実・強化」は、今、生涯学習センターなどで具体的に相当やっていますから、そういうものをもっと活用できるように、我々はPRに徹するという発想にもなります。

シルバーセンターのやっていることにまで手を出すのではなくて、そういうことはここでやっているのだから、ぜひ行ってくださいよと。

イベントと言うとお祭り騒ぎをすることだから趣味の場ではないと思われませんが、趣味の発表の場だって、それは発表というイベントですから、全部が錯綜していると思います。

そういう中で、ほかがやっていないくて社協や老人クラブがやっている。それをおまえたちはもっとやれと言うのではなくて、そういうものがあるから、みんなでどんどんそちらでやりましょうという言い方をすれば、そう難しいことではないと思うんです。

シルバーセンターはシルバーセンターでやっているのだから、あそこは非常におもしろいよと、むしろそれを区民会議としてPRすることが1つのテーマだと思うんです。

委員 そうではなくて、この働く社会への支援を我々が具体的にどうするのかと言っているんです。PRだけなら人材センターがすればよいけれども、そのPRの方法です。この区民会議で具体的にどうするかが問題だと思います。

委員 私は「きっかけづくり」で、本当はシルバーセンターへ行きたいけれども、何か玄関

から入りづらいという人もいる。そういう人には、どういうきっかけで入りやすくできるかと。

逆に考えると、行きやすい場所でないとうPRはできない。どなたかの挙げたシャトルバスも関係します。不便なところ、行きづらいところでは何をしても行かないです。

委員 シルバーセンターを知らない高齢者も、まだたくさんいます。冊子が区役所から出ていてもわからない。それをここで取り上げて、こういうものがあるよという情報発信ができれば一番よいと思っているんです。

シルバー人材センターでは草むしりの依頼が一番多く、65歳を過ぎると大工さんはなかなか難しくなってしまう。

委員 我々が仕事を依頼しないと、登録しても仕事がないということにもなるでしょう。

委員 以前は各区役所で登録できたのに、今は2カ所ぐらいに集約されていて、しかも受付日時も限られています。

委員 理想的には人材センターに行かないで登録や依頼ができればいいけれども、そこまで言ったら難しいですね。

委員 施設予約のように、各所の端末から登録や依頼ができれば一番いいと思いますね。

委員 商工会議所にはOBシルバー協力隊とかいうものがあるって、そこでいろいろな仕事の分野を振り分けながら、申し込むとそこから派遣してくれるそうです。

オブザーバー テクノプラザですか。

部会長 テクノプラザは工業版で、その商業版が去年あたりにできたんです。

委員 各商店街では、こういうものがあるなら申し込んでみようとか、大分よかったという声があるので、シルバー人材センターももっとPRする必要があると思います。商工会議所の取り組みは、高齢者への働く場と報酬の提供には非常に有効だと思います。

委員 区民会議としてPRの集いを開き、シルバー人材センターや商工会議所の事業を説明してもらい、どれも自分の望みに合致しなければ、改めて区民会議がどこかに働きかけるというようなことは、スタートとしておもしろいかもしれませんね。

我々はいろいろなことはできないけれども、少なくとも川崎区では情報がうまく流れ、意欲のある人が何らかの情報を入手できるようになれば、よいモデルになります。

多分こういうことは余り不便なところでやられたら、そこへ行くまでが大変だと言う人もいるし、そうすると段差解消やシャトルバスの話も出てくるでしょう。

委員 趣味の発表の場にはこういうものがあるとか、「これまでの知識や経験を活かせる機会の提供」とか、そういう項目を紹介する「集い」を開いてみればよいと思います。

部会長 一通り意見が出て、富田委員からまとめのような意見がありました。日本の特に男性高齢者には仕事をしたいという人がたくさんいます。調査でも3割の人は仕事があればずっと働きたい、見返りは小遣い程度でいい。しかし、ボランティアは余り好きでなく、何らかの報酬を望むという人がいます。

シルバー人材センターがもっと活用されるように、区民会議が間に入ることで、知らなかった人との橋渡しができればよいと思います。

「集い」には働く場の紹介や趣味の発表も入ると思います。当然「イベントの実施」に結びつくので、「趣味の発表の場」づくりや「高齢者が働ける社会への支援」という意味で、シルバー人材センターだけでなく、商工会議所の事業もPRしてはどうでしょうか。

委員 老人会等で積極的に活動する人とそうでない人がおり、女性は街角の立ち話でも情報をとれるけれども、男性はほとんど自宅にいます。そういう人たちに、うちに閉じこもっているのではなく、こういうものがあるということをPRすることが必要だと思います。

定年になったらゆっくりしたいという人もいるし、男性は女性と違って、自分の住んでいた世界を通り過ぎたら、案外と生きがいを自分で作り出し、そういうことは余計なお世話だと言う人もいます。いろいろな催しはしなければいけないけれども、その前に、そういう人たちに何か発信しないといけないと感じました。

部会長 その手法として、元気な女性の場合があったら、そのご主人の背中を押してそういう場に出させるという方法もある。それは次回以降、具体的な人集めの段階で相談したいと思います。

では「経験の集約、情報発信・活用」については「活動PRのための『集い』の開催」をメインに、いろいろなものを取り込んでいくという形でよいでしょうか。

〔各委員承認〕

部会長 次に「地域・世代間交流の活性化」について、地域が疲弊しているとか、近所づ

き合いが乏しいと言われますが、特に意見の中心は、将来を担う低年齢層の子どもとの接触を求めています。ご提案は7つありますが、どれを「地域・世代間交流の活性化」の解決策としましょうか。

委員 「世代間交流」の1つは、吉野委員がされた歴史散歩などで、日曜などに孫世代と高齢者が触れ合うことも必要ではないかと思えます。

さらには10月に川崎区で「フェスティバルなかわさき」というイベントがあるので、そこへ連れ立って参加したり、私の商店街ではハロウィンに子どもの参観というイベントがあるので、そういうものをどんどん利用してほしいと思えます。

いろいろな団体で高齢者がそういう場へ入っていけるようにするためには、「外出しやすい環境づくり」の「家族の援助」も関連すると思えます。

川崎南ロータリークラブが宮前小と提携してマナーキッズという活動をしています、情報を得たらすぐそこへ入っていくということも大いに必要かと思えます。

委員 確かに歴史散歩のイベントの後、我々の力不足もあって、それをフォローする仕組みがないために1回だけで終わっているんです。

この間、ああいうイベントがあったから、関連した催しがあるならまた出してみようというような連続性があると、つながっていく、だんだん草の根に浸透していくという気がしているのですが、歴史散歩も1回だけなんです。

少なくともリピーターの方には、個人情報の議論はありますが、できるだけ住所を聞いておいて、後でまた連絡するような仕組みづくりはほんの少ししています。そのフォローをしていかないと、1回だけの花火になってしまうんです。

委員 継続ですね。

委員 継続できるような仕組みと、どこが核になるかという問題が出てくるんです。

委員 「健康づくり」の歩こう会は、「地域の伝統文化を若い人たちに伝える」ことも兼ねて、まちを散策するような形でやっていければと思えます。

委員 川崎区には小学校が20校あり、14～15校で学区内の歴史を探検しようというようなテーマをカリキュラムに入れてくれています。我々が参加すると、おじいちゃんと孫の関係になります。子どもたちは必ず礼状を送ってきて、また何々先生の話を知りたいと言ってきて、時には給食を一緒に食べたりしているんです。

何かの共通事項があって継続できれば、あの小学生たちが中高生になったときにどうな

るのかなという楽しみがあります。

委員 ことしは二ヶ領用水400年祭があるようですが、そういうものをどんどん取り入れることも、有効だと思います。

委員 残念なのは、7区が上流からシリーズでやってきたらいいのに、今は各区で単発的なんです。川崎区は今検討中ですが、ああいうものは1つのアイデアだと思います。

委員 とりあえずは川崎区内の隠れたものを散策するようなことから始めて、その輪を大きくしていったらいいのではないですか。

委員 こんなことをやったらだんだん広がっていったという形がいいでしょうね。

委員 「町内会・自治会活動の活性化」も、老人会、婦人会、町会が1つになっているいろいろな行事をやることで活性化するのですが、うちの老人クラブは毎年、四谷小学校で1年生に昔の遊びをずっと継続して教えて、竹馬をつくったりしています。

2年生には、民生委員や社協の委員とお年寄りが行って、ひとり暮らしの方と一緒に給食を食べるとか、3、4年生には地域の太鼓を実際にやっている人たちが学校へ行って教えとか、5年生には車いす体験もしていますから、結構交流があるんです。

ただ、川崎市の老人クラブ全部でそういう活動をしているわけではありません。町内会とのつながりの関係もあるんですね。

委員 すごくいいことで、大師ではそれがすごく進んでいます。

委員 私自身は中原区です。自分の出た学校へは、4年生、5年生については宮内の歴史について、子どもたちが何を聞きたいかを聞き、地域のお年寄りがしゃべります。中には昔の火消しの格好というものがあるのかと聞かれ、とびの人が昔の服装をして火消しの話をし、まといを持っていったそうです。

老人クラブでは、1月に子どもたちと百人一首をします。子どもたちが早くて、大人は取れないですね。それはもう15年以上続けています。その後にはふれあい給食ということで、全校ではないですが、市内あちこち、川崎区でもやっていると聞いています。

委員 小田まちづくりでは、もう10年になりますが、1月7日に小田公園を借りて、たこ揚げや羽根つき、竹馬、シャボン玉といろいろなもので遊び、京町中学校の生徒さんに来てもらって小さい子どもをかごに乗せ、昔の交通の体験とか、大型のかわさきかるたをつく

って遊んでいます。先日は夏のお楽しみ大会でスイカ割りや手品、ペットボーリングや、水をまくと気温がどのくらい下がるかを調べるために、みんなにペットボトルでおふろの水を持ってきてもらってまくとか、そういうものはみんな個々にやっています。

私のほうは、冬は保育園児を中心に、夏は小学校低学年を中心にやっていますが、冬などは小学校で700人、先日は160人の参加でした。そのようなイベントのほか、自分の町内を歩こうということで、原さんのほうでいろいろと力を入れています。

老人会の中の接触はなかなか難しいのですが、その辺が1つのかぎかもしれないですね。

委員 うちのほうの老人クラブは毎週日曜日、街路樹の掃除をしています。第2・第4日曜日は町会や婦人部や手のあいた人で地域の4公園の掃除を分担しています。

だから町会とのかかわりも、そういう場面で自治会などとのつながりがあり、全体に動きがとれるんです。何かの形でそういうものを利用できればいいと思います。

部会長 各地区でいろいろな取り組みをしていますが、知らないことが多いので、参考になる活動を知るだけでも随分違うと思います。

「町内会・自治会活動の活性化」についても、いろいろなところでいろいろなよいことをやっているけれども、場合によればそれを自分のところで取り入れられるのではないかと。町会の悪口を言う場ということではなく、よいところ探しができないか。地域の活性化というくくりでは、その部分が大切ではないかということですね。

時間がもう大分過ぎているので、まだまだ話し合いたいのはやまやまですが、区民会議の高齢者部会としては「地域・世代間交流の活性化」で何を取り上げましょうか。

例えば、まちを歩こうということも1つかもしれません。若い人や子どもたちと一緒にまちを歩いて、自分のまちの意外に知らないところを知ることが地域文化を支えるかもしれません。具体的なご提案をお願いします。

委員 11月5日の子育てフェスタに高齢者が参加する、この辺は割と簡単にできるのではないですか。

先ほどの歩こう会などは、次の「外出しやすい環境づくり」へ持ってきて、「区内全域の交差点の歩道・車道の段差解消」があるから、ただ歩くのではなくて、歩きながらそういうものを点検するというので、次の段階にもつなげられると思うんですね。

委員 何々をやるから集まれと言うより、ちょっと親しくなっていると、小学校から運動会に来てくださいと言われる。そうすると子どもたちは張り合いがあるらしいんです。あいさつなどもして、そうすると給食と一緒に食べましようとなる。田島小学校などは、うちには資料館があるから見ていってくださいと、そういうことは向こうから言われます。

そこで交流していると、こっちはガイドしかないのですが、原さんが言うようにとびの格好でまといを振るとか、そんなことをして、学校を核に周辺の人が集まるということも1つのアイデアだと思います。それが本当に広がるかどうかはわかりませんがね。

我々は子どもたちと一緒に、もっと親しくなろうねという意味合いでやっていますので、ちょっと意味は違っているかもしれません。

部会長 これで行きましょうというようなまとめの方向でお願いします。

委員 とは須山さんが言うように同じような形なので、まちの散策はこちらでやっても取り入れればよいと思います。

委員 点検しながら、段差などを見ながら歩くとよいと思います。

委員 とにかく1つでも何かをやらなければと。

委員 余りふるしきを広げても大変だから、できることを絞ってですね。

部会長 まち歩きは ということで、では どうしましょう。

委員 これは「地域の伝統文化を若い人たちに伝える」ということで考えて、その中に「健康づくり」も「世代間交流」も「サークル活動を通じて仲間を増やす」も入ってくると。余りいろいろ考えてしまうと、何もできなくなってしまうから。

部会長 今、富田委員から「地域の伝統文化を若い人たちに伝える」でどうですか、という提案ですが、いかがでしょうか。

〔各委員承認〕

部会長 よろしいですか。いずれにしても、やり方はこれから具体的に検討しましょう。学校を巻き込むとか、地域クラブとか、いろいろなところで実際に昔遊びを教えているようなグループを集めてということもあるでしょう。

委員 そうですね、ほかに集約のしようがないと思います。

部会長 では「地域・世代間交流の活性化」は「地域の伝統文化を若い人たちに伝える」

を主体に、それに関連するものを取り込みながらやっていく。地域の活性化や世代間交流に結びつくようなものを実施するということで進めたいと思います。

最後に「外出しやすい環境づくり」について、既にみんなでまちを歩こうというような話も出ておりますが、実はここに8つご提案があります。

、はどちらかと言うと元気な高齢者の対応策でしたが、「外出しやすい環境づくり」は、むしろサポートしなければいけない高齢者、この会議でも、ひきこもりの高齢者が見受けられます、そういう人たちを外へ出したいですねというようなお話をいただいていたと思います。

解決策は8つ、1つ目は「家族の援助」が必要ですという部分。

2つ目は「シャトルバスの導入」。これは猪熊委員から詳しくご説明があり、富田委員からご提案いただいておりますが、JR川崎駅の東西の行き来や病院への足の便に関するご提案です。

「居場所づくり」は高齢者の居場所づくりのことであり、次の「公園に高齢者専用の憩いの場を設置」も同じ意味合いかと思えます。

5つ目は「高齢者向けの散歩マップ・ウォーキングマップ作成」ですね。

委員 つくった人に聞くと、かなり高齢者を意識したようで、2キロコースとか4キロコースとか、レベルを変えています。なかなかうまくできていると思っていました。

部会長 「歩道の安全性向上」は、読んだだけではわかりにくいのですが、参考1の資料を見ると、特に自転車との関係のご提案かと思えます。

「区内全域の交差点の歩道・車道の段差解消」は、逆に自転車を利用する場合かもしれませんが、部会でも随分とご発言がありました。

最後は「ベンチ・トイレ等の設置」です。ここには割とハード系のものもあるので、区民会議だけでは解決できない場合もありますが、で何を取り上げたらよいでしょうか。

委員 自分で発案したこともありますが、「シャトルバスの導入」は非常に難しい問題なので、何とか区民会議で取り上げていただきたいと思えます。

委員 シャトルバスと言うと、どこかに行ったり来たりだけのような印象を持ちます。

委員 名前はともかく、要するに西口、東口、そして富士見球場を巡回するような、横の線を利用するようなものです。川崎は全部放射線状に開いていますので、横のつながりがほとんどないですから、横のつながりを重視する形を提案することが目的です。

委員 副区長さんをお願いしたいのですが、現在の市営バスが3台も4台も続けて来てしまうのは何とかならないですか。夕方のラッシュになると、ぎゅうぎゅう詰めでした。

副区長 聞いてみます。

委員 旧市電通りを走るバスでは、コストコができてからそういう現象があります。コストコで非常に渋滞し、信号待ちで追いついてきてしまって、だんごになるんですね。

委員 「家族の援助」について、家族だけでなく、もう少しいろいろな人たちで、援助という言葉ではなく、外出しやすい環境をつくっていかねばいけないと思います。

委員 今、老人クラブで友愛チームというものがあって、全然出てこない人や寝たきりの人のところに3人なり4人でチームを組んで訪問しています。だから、そういうところを利用していただけるといいと思います。

委員 2人1組のチームの形で、訪問することがその方へのお土産だと言っていますが、お誕生日などには、多少手づくりのものを持っていったりします。

委員 ひきこもりの方をなるべく外へ、老人クラブの集まりに出ませんか、カラオケに行きませんかとかいう誘いもしてくださっていると思います。

部会長 老人会の組織に友愛チームというものがあるんですね。

委員 私は「ベンチ・トイレ等の設置」はぜひやってほしいです。

私どもがガイドをやるときに、高齢の方には1時間ぐらいでトイレを探します。最近コンビニは使わせてくれるようになりましたが、お年寄りにはトイレが近くなることは事実で、そうするとお店に入らなければならないから、つい外出がおっくうになります。

もう一つは、お年寄りには確かに疲れやすい。私の母は、喫茶店などで休むのに1人では入りづらいものだから、息子を連れて行って、ちょっと歩くと休もうと言うんです。

ちょっとしたベンチ、それから、トイレは難しいとは思いますが、これは是が非でも区民会議ぐらいで提言してほしいですね。余りにもなさ過ぎます。

委員 ベンチは一時あちこちにありましたが、浮浪者が寝るということでみんな取り払われてしまいました。

委員 行政がつくるから、みんな無責任なので、商店街でもロッカーでも、お店の前に商店の負担で置いて、横になれないようにすればいいと思います。

委員 ベンチと言いますと、桜本の桜寿園と池上新町の聖風苑の近くのバス停は障害者や高齢者が多く利用するので、私は去年から頼んでいるのですが、催促してもできません。

うちの台町のバス停には立派なベンチができたので、市議員に聞いたら、屋根を新しくしたバス停にはベンチも置くけれども、古いところは順番だからできないそうです。高齢者や障害者の多い、希望しているところを優先してくれないかと思います。

委員 高齢の方は、1時間連続的に歩くということは相当苦痛らしいです。

委員 高齢だけでなく、障害者施設もあるから両方です。

委員 ホームレスのベッドになると言いますが、ミュージア川崎の座れないベンチをご存じですか。わざわざとげを出して、座れるのは3人ぐらいです。あんなデザインにするならやめてほしいと思います。

元気な高齢者でも年をとるほど疲れやすく、トイレは近くなります。ベンチとトイレは本当に必需品です。ただ、行政に頼るのでなく、商店で広告を出すなりして……。

委員 道路交通法の規制のためにできないんです。商店街でも夏場にパラソルを立てようという案はあるのですが、警察は一切受け入れない。もしそのようなことが路上でできれば私どもとしては本当に要望したいと思います。

委員 前回もそう言われたけれども、では、警察はちゃんと規制しているかと言うと、何もやっていないではないですか。歩道に立てた看板には文句を言いません。

委員 商店街では、その出っ張り店と看板をどうするかも大変な問題なんです。

委員 やった者勝ちになっているんです。

品川地区は宿場全体が歩行者天国ですが、あれは3年とか5年かけて行政、警察に繰り返し頼んで実現したと言います。だから川崎も、旧東海道、道幅が狭くて歩道が狭い。あそこを一方通行にすると、あのかいわいの方は皆そう言っています。それは3年なり5年かかってもやるぐらいの意気込みがないと、警察に言われたと引っ込んでくるからいけないんですと、その方は言っていました。

委員 いろいろな団体がおやりになっても、個別にだから御しやすく皆つぶされてしまうので、区民会議ぐらいで取り上げるテーマではないかと思います。

委員 ベンチとトイレが出たのですが、和式のトイレでは老人が使いません。9月20日に小学校の体育館で敬老会をするのですが、生徒の洋式は1つ、身体障害者のトイレは洋式ですが、公園は夜中でも水が流せるので、ほとんどが和式です。洋式にすると、またいろいろな問題が起こると思いますが、ベンチ1つ、トイレ1つでもいろいろな課題があるということですね。

委員 フランスのパリは、あんな大都会に丸い有料トイレがいっぱいあります。女の人が簡単に入って化粧直しもでき、全部水洗です。

委員 について、「シャトルバスの導入」は非常によいことだと思いますが、そう簡単には進まないと思うので、とりあえず路線バスを、東でとまるものを1日何本か西まで、西どまりのものを1日何本か東まで来るようにして、駅横断をうまくすると。

また小田から大師へ回るバスについては、地域住民のアンケートをとって、どれだけの人が要望しているかという裏づけをとって運動したらよいと思います。

そのほかは、「高齢者向けの散歩マップ・ウォーキングマップ作成」を、高齢者向けの短いコースのものだけつくるようにして、 を締めくくったらどうですか。

そして「ベンチ・トイレ等の設置」も運動していく、「公園に高齢者専用の憩いの場所を設置」も考えていったらよいと思います。

「区内全域の交差点の歩道・車道の段差解消」は で取り上げたらよいと考えます。

この段差解消は、ただ黄色い線で歩道と車道の区別をしている場所もあり、これは1つの方法だと感じました。

部会長 段差解消は でぴったりではないですか。

委員 もいいですが、 の「地域の伝統文化を若い人たちに伝える」で、まちを散策するときに、段差なども一緒に点検したらよいと考えました。

部会長 富田委員からは「シャトルバスの導入」と高齢者向けのマップづくりの2点を中心としながら、ベンチ・トイレも居場所づくりも必要というお話だったと思いますが、そんな感じでよろしいですか。

委員 これだけ絞り込まれているので、1つの中にいろいろ含めていけばよいと考えました。

委員 「公園に高齢者専用の憩いの場所を設置」は、先ほどの孫たちと交流をするということに反するので、専用は余りよくないと反省をしています。小さい子からお年寄りまで憩える公園でよいと思います。

部会長 高齢者用があっても、特に交流を否定しているわけではないですね。

委員 川27系統日清製粉線を日中の時間帯のみ市立病院、税務署、市役所を経由するという路線変更を西部まちづくりクラブが音頭をとり、臨港バスと京町・小田・渡田まちづくりクラブ、地域振興課担当者で行っています。

委員 こちらで問題にする前にやってくれればいいですね。でも、こっちはこっちで進めてもよいと思います。バスはただ動かしているわけではなく、お客を乗せるとなると停留所も必要だし、相当な費用を伴うので、実行までには時間がかかると思います。

委員 別途頑張ってくれています。

委員 本当にいいと思うけれども、これだけのバスが動いているところへ、まだシャトルバスとなると、難しいと思うんですね。

委員 シャトルバスという言い方は別として、横の線をうまく利用できる路線が必要だと考えています。

委員 要望でいいと思います。50人も乗れなくても、マイクロバスでもいいんです。

委員 大きさは具体化してからの問題ですが、吉祥寺の例などを見ると30人乗りぐらいの細い道へも入れるバスで、パンダなど市民に親しまれるような車体の絵になっています。

委員 地方都市で見ましたが、車輪が小さく、床が非常に低いんですね。

委員 私も見ましたが、8人乗り程度のワゴンが町を回っていて全部無料です。町役場を出て、点在する車のない高齢者世帯を回っていくのですが、田舎ですから停留所は空き地を少し借りれば済むわけで、都会では無理だと思います。

委員 富田さんは東口と西口を回遊するバスでよいと言われましたが、第1段階はそれでい

いと思います。

ところが、川崎区にはへそがないんです。その中心となるべき場所は富士見球場周辺ではないかと思うので、そこを中心とした回遊性も図れたら、さらにいいと思います。

一番の問題は高齢者が西口と東口をどう行き来するかで、自転車でも何でも、東芝の道路とプール道路と中央を抜ける道路の3本しかない。何しろまずそれを解消することが大切であるということが、この提案の原点です。

委員 1日に何本かは、川崎駅東口で言えば、東口どまりでなく西口まで行くバスをつくればよいと思います。

部会長 皆さんがバスに大変熱が入っていることはわかりましたので、まず第1にバスの導入で、名称はコミュニティバスといたしますか。

委員 そのほうが広範囲に理解されて誤解がないと思います。

部会長 TMOでは、シャトルと呼んでいるのですか。

委員 はい。ただTMOのねらいは、名称でなく川崎の中心街にいかにもうまく回遊性を持たせたまちづくりができるかです。

部会長 TMOは商店街関係の組織なので、シャトル的なものに意味を感じているのでしょう。区民会議は区全体の話ですから、コミュニティバスとして、次回の資料ではそういう表記にして、「外出しやすい環境づくり」の1点目は「コミュニティバスの導入」、2点目は「高齢者向けの散歩マップ・ウォーキングマップ作成」、さらに高齢者の「居場所づくり」としたいと思います。

ベンチ・トイレの話は、実現性は別として理解されやすいものであると思いますが、コミュニティバスと同じように、相当の時間がかかるかもしれません。

委員 時間がかかっても構わないと思います。

部会長 今回の全体会議はあくまでも委員全員による検討の場なので、部会としてこれを提案したいと思います。その場でいろいろな意見が出るかもしれません。

委員 ベンチだけでなく、ぜひベンチ・トイレとしてください。

公園のトイレなどは風紀上の問題もあり、女性は怖くて入れません。私の提案は有料ト

イレでもいいという感じですが、また、全部行政の負担でという限定はないんです。

部会長 手法は改めて聞きます。きょうは取り上げるテーマにとどめます。全体会議で他の委員の意見を聞きますが、 の提案は4点になりました。

資料2の「実施時期」以下については、引き続き各委員の検討を求めます。

課題解決策の3分野について、部会提案としたいと思いますが、よろしいですね。

〔各委員承認〕

部会長 魚津委員長に感想、意見を交え、あいさつをいただきます。

オブザーバー きょうは本当にごくろうさまでした。

このように各部門の代表者が出ていても、相手が何をしているかわからないため、これだけの課題が出てくるのだと思います。まして一般区民は、知っていても知らんぷりをしたりで、何年も同じパターンで取り組んでいるけれども、なかなかうまくいかない。しかし、それはそれで一層取り組んでください。

女性は初対面でもいろいろな話ができますが、男は60歳、65歳で卒業したとなると大した話はなかなかできない。引っ込んで出てこない人が多いので、やりにくいと思います。

「(生涯)学習機会の充実・強化」という提案もありました。今回たまたま全体会議後に死亡高齢者の年金詐取や児童虐待の問題が反響を呼んでいます。それにしても元気な高齢者が80%以上を占め、社会貢献したい人はたくさんいます。ただ、どこで社会貢献をするのか、なかなか出にくいというところがあると思います。

できればこの提案も入れて、季節のよいところに魅力あるものを浅く広く取り上げてはと思います。そのときのOB会などから社会貢献をしようというムードが出るような形を考え、カリキュラム名は元気学園などにしてもいいと思います。

生涯教育などと言わないで、簡単に行けて気楽な場とし、その中から生まれてくるようなことを考えれば、また違うと思います。

バスの話も大分出ましたが、バスやベンチ、道路補修のことなどは参与の先生方に考えてもらい、違うことを考えたいという気がします。

横浜市営バスは旧国道に一回り小さなバスを走らせていますから、やりようでは難しくないと思います。提案だけして、あとはちゃんとやってよと言いたいという感想です。

いずれにしても、これだけ活発なご意見いただき、まとめていただきましてありがとうございました。今後ともよろしく願います。

部会長 ありがとうございます。

生涯学習機会の提案に触れられました。富田委員からは難しいからよそうという指摘がありましたが、これは高齢者が長年の経験で得たノウハウやスキルを発表する場をつくらうという趣旨です。

人前で発表をすることは大変勉強になるし、聞く側も勉強になります。難しいことを取り上げる必要はなく、若い人も参加できる場づくりができないかという提案です。

オブザーバー 今は高齢者にも例えばパソコン的なスキルが必要になり、簡単なことだけ広く浅く解説するならできるという人もいます。生涯教育とか難しい名前ではなく、もっと取っつきやすいネーミングを考えてください。

部会長 “かわさき雑学大学” というような意味合いでできないものかと思っています。時間も過ぎたので、この程度にします。

(2) その他

事務局 “環境の広場” 展については添付資料をご確認ください。次回部会の日程は、後日調整します。

副区長 <お礼を述べる>

3 閉 会

部会長 ありがとうございました。

午後 8時35分 閉 会